

中期目標 (今年度の学校経営の重点)		短期目標 (具体的な目標)	成果・取組指標 (目標達成のための手立て)	1学期のふりかえり・改善案		学年末 全体の評定		学校関係者評価委員		
				評定	今後の改善案(文面で)	評定	2学期でのふりかえり	評定	1年間のふりかえり	
自 共 に 学 ぶ 子 ど も の 育 成	① 生涯にわたり協働的に学んでいける。	・ICT 機器を適切に活用しながら、学び方を選択した	児童:ICT を使ってみる	・朝学習、授業、家庭学習等の時間を設定し、児童にとって I C T を身近なものになるようにする。	B	・朝活動のメニューは教務・他分掌と相談することで子ども達が ICT を使う機会を一定時間確保することで ICT の活用を積極的に行えるようにする。 ・ Navima の使い方についての研修を行い、課題配布等より良い使い方について教員が理解し実践できるようにする。	B	・朝活動の時間の確保ができ、児童が ICT に触れる時間を増やすことが出来た。 ・ Navima の研修の実施が出来なかった。(ICT 担当と相談し可能であれば 3 学期に実施できるとよい) ・情報モラルの課題に気がつき指導できたのはよい機会であった。引き続き、校内の使い方ルールに沿って声掛けを続けていく。 ・児童のタブレット使用実態状況を来年度へ引き継げるよう、年度末に現担任へのアンケートを実施する。	B	・継続されると良い。 ・家庭学習としてサタデースクールにキャラクタータブレットを持参する児童も増えている。使いこなしている様子。 ・ I C T 教育は学習能力の向上やインターネットなど現在社会に求められているスキルを学ぶことは大事。半面 SNS の扱いについては慎重に。
		・ICT 機器を適切に活用しながら、学び方を選択した	教員:ICT を活用する授業の構想力を高める	・校内研修で授業プランの作成・実践と考察を行い、目の前の児童にあわせた学びをどう実現させるか授業改善を行う。 ・校内での情報共有や、他校の情報収集を行う。	B	・2 学期以降、研修の計画通りに授業実践を行い、教員の ICT を活用する授業の構想力を高めるようにする。	B	・全員が授業実践を行えた。 ・学年ごとに授業実践グループを作ったことで、少人数で見学と振り返りがスムーズに行えた。	B	・ I C T の効果的な使用方法を目指す授業が行われている様子。
		・ICT 機器を適切に活用しながら、学び方を選択した		少しずつでも指導者が I C T の活用ができるようにする。	B	・授業の構想と実践を通して、ICT 活用した授業の構成力を高める児童の授業により深まりがもてるようにする。	B	・教員間で活用方法について伝え合う機会が増え ICT を積極的に活用しようとする意識が高まった。 ・今後は、ICT を効果的に活用する授業に向けて、ICT を使うことで学習効果が上がる研究を続ける。	B	・タブレットの宿題が出るなど、後半は先生方が使いこなしていることを感じた。
②	・夢を抱く力と夢をかなえる力をバランスよく伸ばしている。	・人、もの、こととの出会いやかかわりを通して、自分たちがふるさとに支えられていることを知る。 ・働いている人の思いや願いを知り、意欲的に探究しようとする。 ・自分なりの目標を持ち、その達成や実現に向かって努力し続けようとする。	・各学年の教育活動に地域の方と連携した学びを取り入れ。「ふるさとの人、もの、こと」から学ぶ機会を作る。	B	単元(時期)によって、評定が変わってくると思われる。 ④授業の中で、江津・本町・松川・川平等、地域を表す言葉を多く取り入れる。	B	どの学年も限られた時間の中で、地域のひと、もの、ことを活用した学習や行事を実施することができた。	B	・伝統行事との関りが多く素晴らしい。 ・育つ地域の理解(生活・文化・人)を続けてほしい。 ・自然豊かな江津。もっと外に出て故郷の景色や音、風を感じ、そこに住む生き物に接し本当の故郷を知ってほしい。夢をかなえる場所が故郷であってもよいと思える子供に育ててほしい。里山を荒廃させている我々の責任を感じる。	

				・キャリアパスポートを活用し、これまでの学びや自分の成長をふり返る。	B	目標を立てる時期だったので、1学期は成長や成果が見えにくい。 ④ふるさとシートや行事シートを活用して意識を高める。	B	キャリアパスポートを書いて、振り返りをすることができた。パスポート以外にも、振り返りや定着を図る取り組みをしている。	B	・キャリアパスポートを自分で使いこなせるサポートは継続してほしい。
認め合い支援合う子	① 特別支援の推進	・適切な支援を受けながら、見通しをもって学ぶことができる。	・児童の実態把握を行い、合理的配慮を行う。	・保護者や子どもの願いや思いを理解して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、適切な支援ができるようにする。	B	子供の支援を話し合う支援委員会の回数を増やしていくことで、適切な支援を行う。 ・少人数(管理職・担任・コーディネーター)の会を多く設け共通理解し支援を行う。 ・職員会議で2チーム(低・高)に分かれて支援委員会を開き、丁寧な特別支援の推進を行う。	B	・支援会議において児童の情報共有ができた。 ・全学年の校内支援委員会を実施したが、全学年の校内支援委員会を実施し終えたのが2学期の後半だったため、来年度は夏休み中に開催する。 ・来年度からc4th運用が開始となるため、プロフィールシート・支援シート・個別の指導計画についての年間計画の変更を考えている。	B	支援会議のケースも様々と思うが、支援委員会・支援会議で適切な支援を継続してほしい。
健康でたくましい子	② 人権教育の推進	・自他の大切さを認め、具体的な行動に表すことができる。	自他が気持ちよく安全に過ごせるよう、生徒指導の充実を図る。	・児童や学級の実態に合った生活目標を立て、振り返りを行って、課題解決につなげる。		生徒指導部の出した生活目標に沿った、学級の実態に合わせた具体目標を自分たちで話し合ってたて、振り返りをする。そのため、振り返りカレンダーの様式を変更する。	B	・具体目標を立てることで、生活目標の意識化がはかれた。 ・各学級がどのように取り組まれているかが見えにくいため、各学年の具体目標の共有ができておらず、取り組みの姿が見えにくかった。各学年の具体目標を生徒指導部で集約し、放送などを活用して伝えていく。	B	・学級の取り組みを学校全体に。
				・児童会活動・なかよし班などを中心に、児童自身が自分達の良さや課題を見つめてより良い学校をつくることできるようにする。	B	・児童総会を開き、委員会からお願い、各学級からの要望やお礼、学校生活をよりよくしていくための話し合いを子どもの言葉で伝え合える場を設定する。	B	・たんぼぼ、ひまわりの取り組みについて、掲示の活用や児童が交流できる場の設定によって理解教育につながった。	B	・理解教育は今後も継続。
				・人権・同和教育に視点を当てた授業公開や、学年の発達段階に応じた理解教育を行う。	B	・理解教育について、1学期は交流学級や低学年対象に行った。 ・たんひまの実践を掲示にして示す。 ・10月の学習公開の内容を人権・同和教育に関する内容で行ったらどうか。	B	・児童数減少により児童総会実施が難しい。児童総会が難しい場合は、代表委員会などを開く。 ・人権集会を児童会活動の一つとして取り組む場合は主任任中心で起案しつつ今年度のようなあり方が効果的。児童会活動でない取り組みとして設定するならば、主任中心で取り組んでいく。	B	・LGBTについての講演会が印象に残った。6年生の児童も真剣に聞いていた。学年での児童数のバランスがとりにくい中、自他の大切さを考えていく工夫も取り組みのテーマになるのでは。
① 体力づくり	体育の授業や課外活動、体を動かす遊び等を通して体力を向上させる。	体を動かすことの楽しさを感じられるような機会を設ける。	・児童会活動(運営委員会)による全校遊び・縄跳び集会などを計画し、実施する。 ・ボール運動を中心とした基礎感覚づくりに関わる運動に繰り返し楽しむ。	B	・1学期末に計画したため、未実施。2学期に全校遊びを実行する。縄跳び集会は3学期に実施。 ・高学年についてはボール運動の基礎感覚作りに取り組んだ。低・中学年でも、ボール	B	・運営委員会企画の全校遊びでは、全校がかかわり合いながら活動することができた。しかし目的として「運動の楽しさを感じられる機会」としては設定していない。	B	・体を動かせるのは楽しいので、しっかり感じてもらう。健康そして、動かさない人の理解もいる。	

	りの推進				を扱う単元でスキルアップトレーニングに取り組むよう呼びかける。また、体育館等に取り組の仕方や写真を掲示し、休み時間などにも児童自ら体験できるようにする。		・3学期縄跳び集会実施予定。 ・1・2学期に5・6年体育の授業公開を実施。低学年からできるボール運動のトレーニングを紹介。振り返りからは、ボール運動の基礎感覚作り、技能の向上に取り組むことができたことが分かった。今後、子どもたちに投げかけるような取組を行うことができなかった。			
		落ち着いて生活し、学習に取り組むことができるよう、体作りを行う。	・健康委員会によるいきいきエクササイズに継続的に取り組む	A	・2学期始業式で椅子なしでできるエクササイズ(肩回し、つま先かかとシーゾー)を全校で実施し、意欲向上につなげる。 ・2学期はグレードアップした内容のエクササイズに変更して取り組む。	B	・1学期から内容を変え取り組んだ。3学期も内容を一新し、少しでも体を活性させて学校活動に取り組むことができるように働きかける。	B	・いきいきエクササイズは児童から家庭へ指導するケースもあるのでは。	
②	健康や安全に関する知識・技能を身に付け、継続的に実践できる。 健康教育・安全教育の推進	様々な機会をとらえて、保健指導や食育指導などの健康教育を行う。	・ごうだっ子いきいきチャレンジを年4回計画的に実施し、健康に関する知識・技能を身に付け、継続的に実践できるよう、働きかける。	B	・結果を掲示したことで、児童が自分自身や学級の取組の様子や結果を客観的に振り返るきっかけとなった。次のいきいきチャレンジへの意欲を高めることにもつながったため、引き続き掲示をしていく。 ・保健指導や食に関する指導を実施したり、掲示物やおたよりを活用したりして実践意欲を高めていきたい。 ・図書館ともコラボをして、チャレンジの内容と関連のある書籍を準備していただく。	B	・健康や食、安全にかかわる掲示については評価・関心が高いので、今後も継続して実施する。	B	・メディアでだけでなく、いろいろな保健指導があって良かった。 ・昇降口や廊下の掲示物は児童にわかりやすい。又また、参観日の保護者さんにも理解してもらいやすい。	
			・掲示物やおたよりを通して、健康や安全に関する知識・技能について発信する。 掲示物ー隔月、おたよりー毎月	A	・2学期も校内の実態や季節に合ったものを引き続き掲示したり、お便りを作成したりしていく。 ・掲示物のコーナーを拡大し、“いきいきロード”を作ってみる。	B	・掲示や継続実施、個別指導などを通して、健康教育を進めることができた。今後、事前に目標を立てる部分や事後に振り返る部分の指導を丁寧に行い、より意義のあるものにできるように働きかけていきたい。	B		
家庭・地域社会との提供	よりよい教育を提	積極的な情報発信、計画的な教育活動の公開	学校経営方針や教育活動の情報を積極的に発信し、理解啓発を図る。	・計画的な学校便りの発行や、学級だより、学校HPの活用、連絡メールの活用、学校行事等の適時的案内を行い、教育活動を広く保護者や地域に公開する。	A	・毎週必ず学級通信を発信したり、定期的に保護者へ教育活動を発信したりしている。今後、本格的にテトル活用をすることで学校教育の情報発信をする。	A	・定期的に学校からのお知らせを配信するなど、児童や学校の様子を積極的に配信した。 ・テトルによる送信が有効に働いた。	A	・ICTの有効的な使い方をよく示している。テトルは大変便利。カラーで保護者に届く。スクールカウンセラーの予約や、QRコードの活用がされ便利。窓口が広がった。 ・学校だよりを楽しみにしている。周囲の住民の日常会話の1つになっている。

な が り	る 学 校 づ く り	学校改善を進めるための学校評価の活用	校務分掌組織を活用した学校経営の一貫としての学校評価に努める。	・学校経営方針の評価と他の評価指標との突き合わせを行うことで、評価により客観性をもたせる。	B	・1学期終了したところで、現在ふりかえりをおこなっているところである。出てきた分析は2学期以降に生かす。	B	・定期的に教職員全体で学校評価を行った。また、学校評価関係者委員、学校アンケート、児童アンケート等を生かして話し合い、改善案を行った。	B	・意見の集約で向上されることを願う。
		指導力・対応力の向上を図る校内研修の推進	教職員の資質能力の向上のための職員研修を充実する。	・学力向上のための授業づくりとそれを支える学級経営、学級づくり、人権・同和教育等に関する研修の場を設定し、実践的指導力の向上を図る。	B	・今後 OJT と off-jt を兼ね合わせながら効果的な研修を行っていく。	B	・悉皆研修等が11月に重なった。できるだけ、まんべんなく研修が行えるように調整する。	B	
		教育環境の整備	落ち着いた学習・生活に取り組むことのできる環境づくりをする。	・子どもたちが整った環境の中で落ち着いて学習が行えるよう、教室環境の整備や、教材教具の整理整頓等お互いに声をかけ合い、教職員全体で環境の美化に努める。	B	・校内で対処できること、できないことを精選しながら環境整備を進める。声かけ合って教職員全体で気持ちのよい環境作りを行う。 ・To Do リストを作成し、物品購入が遅れないようにする。	B	・校舎の老朽化に伴い、修繕できるところは可能な限り早く対応した。今後教職員で意識しながら環境美化に取り組むようにする。	B	・新しい上靴などできることから変えていくしかない。 ・校舎の老朽化など伴う安全確保。全ての修繕は不可能なので優先順位でされていることだと思う。

保護者アンケートに記載された文言

★ICT に力を入れているのがわかるが、タブレットの起動が遅かったり、アプリの不具合が多かったりする。今後改善されると良い。→学校では通信が早くなった。児童の写真の大量の保存等も関係する。消すように指導する。

★トイレが臭うため改善してほしい。トイレが狭いため、体があたる。校舎の階段の幅が狭く滑る。怪我をする。だれもが安心して通える学校にしてほしい。→校舎の老朽化も含め、学校だけでは対処できない。

★学校で気になることがあれば必ず先生が連絡をくれる。安心している。毎日子どもは、学校が楽しいと言っている。感謝している。→今後も完全安心に通える学校であるようにする。

★上履きの持ち帰りが多い。1学期に1回という学校もあり。持ち帰りの検討をしてほしい。→上靴は定期的に洗わないと、健康面にも関係する。また、自分で洗うことも大切。洗うか洗わないは別として定期的な持ち帰りは必要。

学校関係者評価委員の方々より

★スクールバス送迎時、スクールバスが到着してから家を出て乗車しているところをよく見かける。運転手に迷惑をかけないように「しつけ」の部分では課題。

★学校から離れた児童が全員スクールバスでの移動なので、地域の人など顔を合わせる機会がなく残念である。

★イノシシ、鹿、サル、熊などの出没により、安全性はどうなのだろうか。教職員、児童の安全安心な環境の確保が最優先だと思う。

★江の川の治水事業により家屋移転等が優先的に進められており、今後さらに集落無住化地域、農地の荒廃化が進み、獣が出没することが見込まれる。児童を獣害から守る環境が必要。

★学校周辺を一步離れた地域では、農業、農村の働きを維持している。田んぼは水を貯留して洪水を防いでいる。田畑は多様な生き物の命を育てており、農村の景観を守り、伝統文化を継承している。ホーランエー、田植え囃子はもとより、様々な伝統文化や農業・農村の必要性を伝えていただきたい。

【アンケート評価について】

評価については、保護者アンケート、児童アンケート、教職員個々のふりかえりをもとにして、各部会で話し合い評価を行った。A：十分達成 B：ほぼ達成 C：一部に課題がある D：大きな課題がある とした。

アンケート結果、実績値などの数値化によって評価する。
 その場合、100%の達成率に対して、A：80%以上 B：60～79% C：40～59% D：39%以下とする。